クロスロード新聞　第25号

2009年9月23日

呉からプレゼント企画
＆
子育てクロスロード

発行元：108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

歩一歩たいそう、いよいよ発売！

皆様からお問い合わせが多かった「ぼうさいダック」をもとにした健康体操「歩一歩たいそう」（ほいっぽたいそう）が、いよいよ呉市社会福祉協議会から発売になりました。DVD(体操の解説）・CD(歌)・解説書のセットで1400円(送料別）です。お申し込みは、以下の呉市社会福祉協議会へどうぞ。

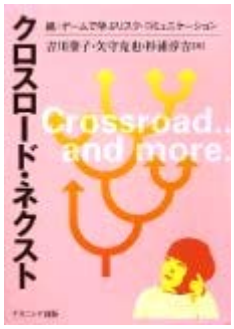
電話：０８２３－２５－３５０９（代）
※受付時間９：００～１７：００（土・日・祝日を除く）
E-mail ： hoippo@kureshakyo.jp
ＵＲＬ ： http://kureshakyo.jp

そして、もっとすばらしいことに、このDVDセットのプレゼント企画が！それは、歩一歩たいそうの歌詞を上記呉市社会福祉協議会のホームページからダウンロードして、地域の方言に翻訳してお送りいただければ、このセットがなんと無料に！プレゼント企画の送付は以下の要領をご覧下さい。ただしプレゼントは各市町村につき１団体」限り！善は急げ！なお、当選団体は，呉市社会福祉協議会ホームページにおいて，締切後２週間以降に，翻訳いただいた歌詞とともに掲載されます。詳細については，ホームページ上の申し込み要項をご確認ください。

※必要事項（団体代表者の）
郵便番号･住所･電話番号･代表者氏名･
団体名･団体活動概要･E-mailアドレス
(必要事項の記入漏れ，記載住所不明などの場合，無効となりますのでご注意を）
★申し込み期間：第１次申し込み～2009年10月10日（土）
第２次申し込み2009年10月20日（火）～11月15日（日）
第３次申し込み2009年11月25日（水）～12月31日（木）
※第３次申し込みにつきましては実施期間の変更がある場合があります。
E-mailの申し込み先：hoippo@kureshakyo.jp
※件名を『「歩一歩たいそうプレゼント」係』としてください。

クロスロード・ネクストが朝日新聞書評に！

「クロスロード・ネクスト」の書評が朝日新聞2009年9月13日に掲載されました！評者は作家の瀬名秀明さんです。著者たちよりも、クロスロードがわかっておられるのではないかという話が出たほど、深い内容の書評でした。すばらしい評者を得て、著者一同本当に感謝しているところです。未読の方、ぜひ、ご覧になってください。しばらくはインターネットでも(asahi.com)でも読むことができると思います。



好意的に書いてくださったことと、新聞の読者数の多さからでしょうか、ナカニシヤ出版にあった在庫はたちまちのうちになくなり、増刷が決定しました。初版にあった校正ミス（申しわけありません！！！m(_ _)m）も、直しました。まだお手元にもっていらっしゃらない方、購入のチャンスです！急いでご予約を。

目次

歩一歩たいそう発売開始　1
朝日書評に登場　1
地域作りにクロスロード　2-3
ファシリテータのつどい in 高知決定！　2
夏は暑い　3
保育者クロスロード　4-5
児童委員クロスロード　6
進級報告　6
JIAMクロスロード　6-7
こんなところに心理学(25)　8
ぼうさいエゴグラム　8

クロスロード次号のご案内
発行予定日：
2009．11．3．
消防団員クロスロード完成！
復活ソナエーターも！

責任編集

- チームクロスロード
- クロスロード・サポーター
- SPECIAL THANKS:
  高知県地震・防災課
  小溝智子（漫画企画）

地域作りにクロスロード：第2弾

地域作りにクロスロードを活用されている、神戸市星和台・鳴子防災福祉コミュニティの吉本和弘さんからは、継続的に新作問題を送ってくださっています。今回は第2弾です。地域作りにクロスロードを活用しようとお考えのみなさんも是非参考になさってください。〔問題は右へ続く。。。）

種別	地域編
タイトル	幼稚園児の送り迎えの車
問題	あなたは・・・住民 近くの幼稚園で子供の送り迎えのために多くのお母さんが車に乗ってくる。道の片側が車で占拠されるため、通行の妨げになって困っている。 あなたは、保護者が車に乗ってこないよう幼稚園に申し入れをする？
解説	地域特性が前面にでた問題です。地域にそんなに幼稚園があるわけはないので、地域住民にとってはすぐに場所を特定できます。クロスロードを通じて地域の悩みを同じ地域に住む参加者に考えてもらおう、というのは少々気が引けますが、あえて個人的意見を言わせていただければ、「よくぞ、問題にしてくれた」と思った問題です。 幼稚園としてもスクールバスを用意しています。しかし、スクールバスを使わない子供もいますし、運動会や文化祭などではスクールバスは運行しません。 このような場合、車がようやく交わせる道幅６mの道路の片側を子供の送り迎えに来る車が占拠します。送り迎えの車が道を占拠する時間帯は決まっており、それも短時間のことです。しかし、これに出くわした車の運転者が、通園の子供や通園に至らない幼児が停車中の車から飛び出さないかとヒヤヒヤしながら通り抜けるわけです。このことは車の運転者にとって大きなストレスとなっています。 抽象的な問題もいいのですが、地域の具体的な話題が提示できれば、会話が盛り上がるだろうという期待感があり、採用した。 実際の結果は、Yes/２２名、No/１３名でした。
主なYes意見	通行の妨げにならないのであれば路上駐車もやむを得ないとしても、通行の妨げになれば許すべきでない。園児に事故があれば幼稚園としても困るはずだ。少し離れてでも広い道に車を止め、子供の手をつないで送り迎えするほうがよい。
主なNo意見	お母さんにとって幼稚園児の送り迎えは大変であり、車に乗ってくるなとはとても言えない。むしろその時間帯だけ、車の通行を迂回してあげてはどうか。

ビッグニュース！ファシリテータのつどい　in 高知　開催決定！

これもまたお問い合わせの多かったファシリテータのつどい、「今年もやらないの?」「いつやるの？」「どこで?」と、続々と。今年も2回やりたいナー、と思っていたところ、高知市危機管理室の今西剛也さんが実行委員長に名乗り出てくださいました。全国のクロスロードサポーターの皆様、どうぞふるってご参加下さい。詳細はまた、WEB CROSSROADでお知らせしますが、まずは日程の確保をお願いします。

日時：2009年12月5日(土)　13:00～16:00
場所：高知県庁本庁舎会議室
（空港、駅からのアクセスもよいため、日帰りが可能です。宿泊すれば，翌日は朝市見学もできます。）

宿泊可能な方は、12月6日(日)の参加もご検討下さい。

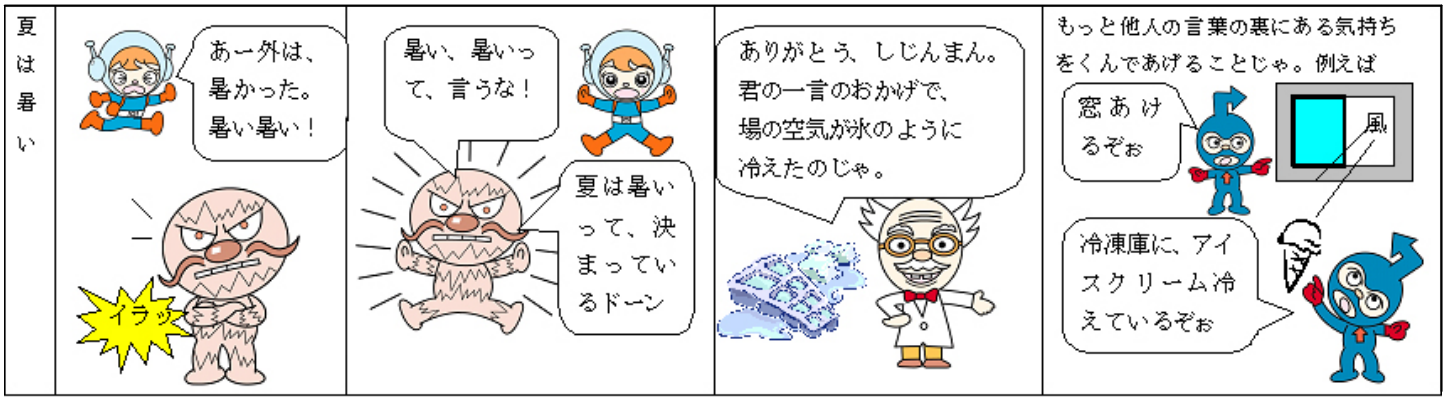
桂浜の対岸に位置する、高知市の津波常襲地区に内閣府のモデル事業で建設した「種崎地区津波避難センター」の見学会が、今西さんのご手配で実現することになりました。あわせて、桂浜散策や隣接する龍馬記念館で楽しむことも可能ですとの嬉しいお知らせです。多くのみなさんのご参加をお待ちしております。
参加お申し込みは事務局(kikkawa@aoni.waseda.jp)まで。

種別	地域編
タイトル	ボランティア会員のドタキャン
問題	あなたは・・・ボランティア団体の役員 　地域のボランティア団体として、高齢者向けのふれあい給食を行っている。これには一定数のボランティアが必要で、欠員が出ると運営に苦労しています。しばしばドタキャンする会員がおり、他の会員から注意して欲しいという意見がでている。 　あなたはしばしばドタキャンする会員に注意しますか？
解説	出題者から実際に提案された問題は、①「しばしばドタキャンする会員を辞めさせますか？」というものでした。 　ボランティア団体が事業を継続しようとすると、多くの会員の力を必要とします。ところが、なんでも参加してくれる会員だけではありません。自分の好きな場面だけ参加する会員、設問のように全くあてにできない会員、名前だけの会員、人それぞれです。役員さんは人集めだけでなく、会員からの苦情にも対応しなければなりません。出題者もその一人として、会員からの突き上げがあったようです。 　クロスロード問題に日常の問題を取り扱う場合、参加者の意見が分かれるように問題を作ると議論が盛り上がります。私達は、まず役員会の中でYes/Noのクロスロードを実施して、意見が分かれるかどうかを判定しています。 　①の検討結果は、全員がNoを選択しました。出題者もNoでした。 　理由は「このような人はどの団体でもおり、いちいち辞めさせていたらボランティア団体の運営ができなくなる。ドタキャンするのが分かっているのなら、むしろキャンセルされることを見越して集めるべきだ」でした。 　そこで、②「しばしばドタキャンする会員に注意しますか？」に修正することで、うまく意見が分かれることを確認したのです。 　実際の結果は、Yes/２７名、No/１５名でした。 　別のグループでクロスロードをする機会があり、①「会員を辞めさせるか」という問題を提示したところ、このグループでは①でも意見が分かれました。 　私が所属する地域グループの役員さん達は、長年ボランティア活動をしてきたつわもの（笑）ばかりです。少々のことでは動揺しないのかもしれません。
主なYes意見	他の会員のストレスを考えれば、注意ぐらいはしてよいだろう。
主なNo意見	注意しても聞いてもらえるわけはなく、むしろ一人でも多くの会員を確保したい。

夏は暑い

高知県防災キャラクター©やなせたかし

※前回、自分の出番が少ないというクレームを入れてきたじしんまん。この夏、トラフ博士のところにホームステイすることになりました。はてさて、みんなとうまくやっていけるのやら・・・。



保育者クロスロード

熊本にあります九州ルーテル学院大学の梅崎と申します。この度許可をいただき，クロスロード・発達支援者版（試作版）を作成しました（図1～3）。実施の様子と共にご報告いたします。

私どもの大学は，文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択されました。テーマは，「熊本発！発達支援者養成プロジェクト」。目的は，特別支援や子育て支援の専門性をもった保育者を育てることです。私は，保育事例勉強会「保育のほっ。」を運営しています（図4）。勉強会を通して聞き集めた保育者の葛藤を，報告書とは異なるかたちで保育者に届け，保育の学びに活かしたい。そう考えたのが，クロスロード製作のきっかけでした。

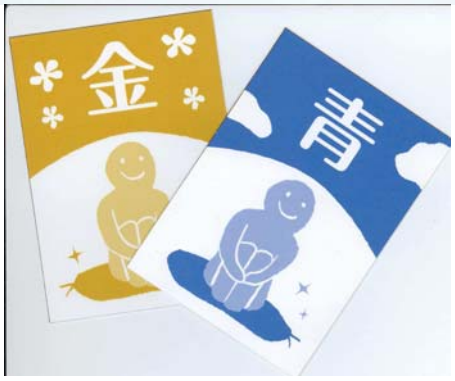
試作版はこれまで，大学の講義はもとより，幼稚園教諭を対象とした研修会（写真1～2）や，保育士養成校の研修会などで活用してきました。今年度末には，実施時に参加者から集めた声を反映し（図4～7），第1版を製作する予定です。

のっぴきならない日常で右か左か判断し，その責任を負っていく。そんな保育者の日常に備えるため，対話に対する着目が，ここ熊本の保育者の間で広がっています。クロスロードはこの目的に向けた，最適な道具といえます。

（九州ルーテル学院大学　梅崎高行先生）

図1　オリジナルカード(表のデザインもかわいらしいです)

↑
図2　イエスノーカード



→
図3　座布団カード

図4　保育の「ほっ」ポスター

写真1　**実施の様子**(1)

写真2　**実施の様子**(2)

問1　あなたは保育者

- 発達障害のある，ある園児の親は，大変に勉強熱心。園では当該園児に合った支援を行っているが，親がその支援に何かと注文をつける。あなたは注文を聞き入れる？

Yes（聞き入れる）　No（聞き入れない）

図4　**問題分の例**(1)

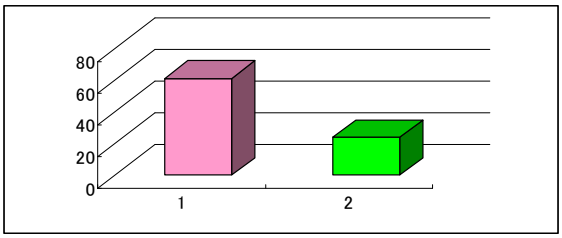
問2　あなたは園の責任者

- 園で実施している預かり保育。ある保護者集団は，園に子どもを預け，その時間に保護者同士でお茶をしているらしい。あなたは預かり保育の条件を新たに設ける？

Yes（設ける）　No（設けない）

図5　**問題分の例**(2)

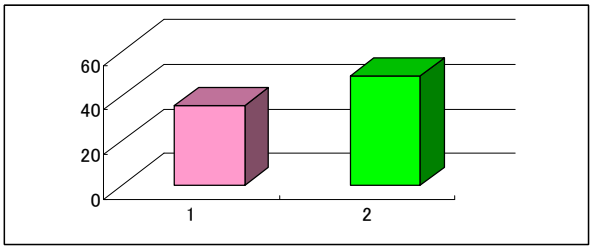
議論1　聞き入れる？



- 聞き入れる の問題点
  - 負担増大，注文がエスカレート，園の方針との不一致
- 聞き入れない の問題点
  - 信頼関係が崩れる，親の気持が無になる

図6　**回答分析**(1)

議論2　設ける？



- 設ける の問題点
  - 利用者減，保護者がリフレッシュできなくなる
- 設けない の問題点
  - 子どもが不慣，目的を見失う，負担の増・支援の低下

図7　**回答分析**(2)

クロスロード子育て編（主任児童委員研修会の報告）

前のページの九州ルーテル学院大学の報告は、保育者の立場からのクロスロードでしたが、このページでは、同じ子育てでも児童委員さん向けのクロスロードの実施報告です。

問題意識の違いだけではなく、神戸の体験された方々の中でも意見が真っ二つに割れること、そしてそれぞれにうなずける理由があることなど、興味深い内容を投稿頂きました。浜さんからは、「こんな一般の方の『生の声』みたいものを、経験していない人が実感できる場があると良いですね。」というメッセージを頂いています。対面の場をご用意することはなかなか難しいのですが、このクロスロード新聞が、その場のかわりの1つとしてお役に立てればと思っています。新聞の読者のみなさんも、「そういえばこんな意見も」というのを、是非実施報告と共にお送りください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

昨年の「クロスロードの集い」で紹介させていただきました「クロスロード子育て編」。今年は主任児童委員さんの研修会で活用していただいています。

まずは、7月29日、「東播磨ブロック民児協会長・主任児童委員連絡会議」で。昨年12月の「つどい」に参加された播磨町職員の上田さんからの依頼で、約８０名とうい子育て編では過去最大の方が参加されました。詳細については上田さんから別途報告があると思いますが、私が面白いと思ったのが、意見があまり分かれなかったにも関わらず、議論が深まったこと。設問が「こまっている子ども（あるいは子育て中の親）に声をかける？」という、主任児童委員のお仕事そのものであったということもあり、「ＹＥＳ」が圧倒的に多い結果になりました。普通クロスロードでは、意見が分かれた方が議論が深まるのですが、今回の場合は、仲間のみんなが「ＹＥＳ」と答えたことに「私が今まで判断してきたことは、これでよかったのだ！」と、「ほっと」された方が多かったようです。そのうえで、「では、どんな声かけをする？」という、一段上の話題に話が移り、そこで議論が深まったのには大変驚きました。日ごろから真面目にお仕事に取り組んでいる姿が目に浮かびました。

次に行われたのが、9月17日「（神戸市）兵庫区主任児童委員研修会」。子育て編を実施する時には、いつも最初に市民編5015「半壊状態のわが家に戻る？」を、練習を兼ねて行います。大体は「カゼはなおるが、家がつぶれたら命がなくなる」や、「避難所の方が物資や情報が入ってくる」といった理由で「NO」を選ぶ方が多く、 模範解答もこちらでしょうが、最近は新型インフルの関係で「ＹＥＳ」も増えてきたかな、という感じでした。

しかし、参加メンバーのほとんどが阪神・淡路大震災の時の避難所経験者という今回、４グループの中で、全員が「ＹＥＳ」班と、全員が「ＮＯ」の班が１班ずつあったのです。 それぞれの班の中での話し合いでは、お互い「あの状況でＹＥＳ(NO)を選ぶなんて信じられない。何で？」という思いでいっぱい。理由を聞いてみると、「ＮＯ」では、今回はじめて聞いたのが「家に帰ると、避難所にいる近所の人に迷惑をかけるから」というもの。この地域はいわゆる「下町」で、ご近所みんな顔見知り、日頃から深～いお付き合いをされています。その中で、一家族が避難所に来なければ「あの人たち、どうしているんやろう？」と心配し、様子も見に行かねばならないし、避難食や情報なども誰かが届けなければならない。それでは、かえってみなさんの迷惑になるというもの。反対に、「ＹＥＳ」の理由としては、「あの避難所の状況の中では、自分の家族（の健康）を守ることは無理。やはり、家族の身を守るには家に帰るしかない」というもの。これには、全員「NO」の班の人から「そんな自分勝手な！小さい子がおったらそうかなあ・・」という反論も寄せられたり、喧々諤々の議論になりました。同じ「避難所」を経験された方の中でも、こんなに考え方に違いが出ることに正直びっくりしました。「正解がない」とはこういうことなんだ、と思いました。だからこそ日頃からのご近所コミュニケーションや合意形成のトレーニング、はたまた擬似避難所体験って大切だなあ・・と、改めて思いました。今後も機会があれば、「体験された方のクロスロード」というものも無理のない範囲で行って行きたいと考えています。

（神戸市　浜尚美さん）

JIAMでのクロスロード(JIAM提供)

ファシリテータ進級認定！

以下の方を中級に認定いたしました。(敬称略)

西宮市消防団上甲子園分団　分団長　小林宗隆

小林様からは、消防団活動に関する多くの新作問題と、訓練で実施された様子の写真を頂きました。次号に特集して掲載する予定ですので、お楽しみに！！

JIAMでクロスロード

全国市町村国際文化研修所、略してＪＩＡＭ。長い名前ですが、全国の市町村職員や議員の研修のために作られた、地方公務員にとって大切な施設です。滋賀県大津市、比叡山のふもとにあります。では、なぜ私が・・・

◆お世話になったＪＩＡＭ

今回クロスロードを行なうのは「住民視点での災害対応～減災と復興～」という講座の中の１コマ。ＪＩＡＭでのクロスロードは、前回は吉川先生、その前は矢守先生も講師をされたことがある由緒ある(？)講座。ＪＩＡＭは、今年も矢守先生にお願いしようと思われたようですが、先生もお忙しいので、私に話が回ってきたようです。

実は、昨年12月20日の「クロスロードのつどいin神戸」にＪＩＡＭ職員の森さんが参加されていました。読者の中には、名刺交換をされた方もいらっしゃるでしょう。森さんは、クロスロードの研修が好きで、今年も楽しみにされていました。

私は、「そんな立派なところで」と思いましたが、昨年12月に神戸まで来ていただいた森さんからの依頼です。また、危機管理室に所属していたときに研修を受けたこともあるところです。断っては申し訳ない、と思い、引き受けることにしました。

◇さて本番

事前打ち合わせもせず、いきなり当日。晴。琵琶湖に臨むＪＲ唐崎駅のすぐ近くに、研修所があります。研修所に入って、担当の沼津さんと簡単に打ち合わせを行い、昼食後、さあ本番です。設問は次の８問を用意しました。

設問１：神戸編1015(柿本アレンジ版)
〃 ２：神戸編1030
〃 ３：市民編5007(柿本アレンジ版)
〃 ４：神戸編1001
〃 ５：市民編5014
〃 ６：神戸編1027
〃 ７：神戸編1018
〃 ８：神戸編1010

受講者40名の殆どが、各自治体の防災担当者ですので、実務の流れに即した、発災直後から仮設住宅の建設までという流れにしました(亀岡市職員向けのクロスロードと同じ)。設問１，２は、ＹＥＳ／ＮＯが大きく分かれることはありませんが、そのイメージする災害の内容に差があります。設問２では、「全壊」という言葉が含む様々な状況や意味を紹介し、共有することに努めてみました。

◆ケーススタディとしてのクロスロード

♪　設問３は、ご存知のように、大雨の中、真夜中の避難勧告で川沿いの家に住んでいる家族が避難するか、という設問です。今回の研修内容を検討する際、迷ったのが、震災以外の災害対応の設問を用意するか、という点です。が、受講者名簿に福井市や愛知県の方を見つけ、この設問を入れることにしました。

そう、平成16年の福井水害、平成12年の東海豪雨の被災地の方がおられたのです。この設問については、テーブル間の意見交換に代えて、それぞれの被災地の方に、当時の状況を紹介していただき、その上で、なぜＹＥＳ／ＮＯなのか、を尋ねたりもしました。福井の方は、建設部門の職員として、水害対応に当たられた方でしたが、「マンホールのふたが動いているかもしれないが」避難するという回答でした。

ここで大事なのは、経験者が避難すると回答した、こともさることながら、「マンホールのふたが動く」という経験者ならではの視点を提供していただいたということです。クロスロードの講師は、私だけではない、受講者も講師なのです。

♫　もちろん、各テーブルにおいて、それぞれの災害経験や知恵について熱心に意見交換がなされ、さながら“防災ケンミンショー”。自己紹介のときには、播磨町の方から、阪神・淡路大震災のときの通学や被災地支援の経験も語っていただき、ふりかえりの共有のときには、沖縄県糸満市の方が「沖縄では、台風が来れば停電は常識だったが、最近、本土からの移住者が増えて、怒られることが多くなった」と話されていました。このお話しからは、社会に応じて災害が変化することを改めて教えていただきました。

このように様々な災害の経験・事例(ケース)を共有する機会として、クロスロードは、適当なものと言えるでしょう。

◇ふりかえって

研修自体は、１コマ70分を２コマの計140分ですが、間の休憩15分を5分にして、前半、後半の一体感を維持するようにしました(もう少し休憩を長くしても良かったかも)。受講者は、40名でしたので、1班５名、８班体制で進めました。1班５名だと、1問当たりの意見交換の時間は比較的短く、スムーズに進めることができましたが、７問にして、設問の解説にもっと時間を割いてもよかったかもしれない、という反省もないではありません。これは、クロスロードの永遠の課題ではあります。

研修後、「難しい判断だが、考え方、柔軟な発想ができるのかが問われた。色々な意見があり、楽しめた。」「ゲームを通して、色々な市町村の現状や災害の体験などが聞けてよかった。」などの感想をいただき、まずまずの好評に安心しました。

素晴らしい環境でクロスロードを実施できたことに感謝した一日でした。

(神戸クロスロード研究会・神戸市職員　柿本雅通さん)

＊事務局より：実施写真は左ページをご覧下さい

こんなところに心理学(25)：心の中のサザエさん一家

今回は、相手と対話するときのコツを、心の中の3人の自分という考え方をもとにご紹介します。

交流分析という心理学の理論では、人は皆心の中に5人の自分を持っていると考えます。エゴグラムという心理テストをされた方はありますか?その元になった理論です。5つの自分とは、厳しい父親、優しい母親、理性的な大人、自由な子供、従順な子供です。

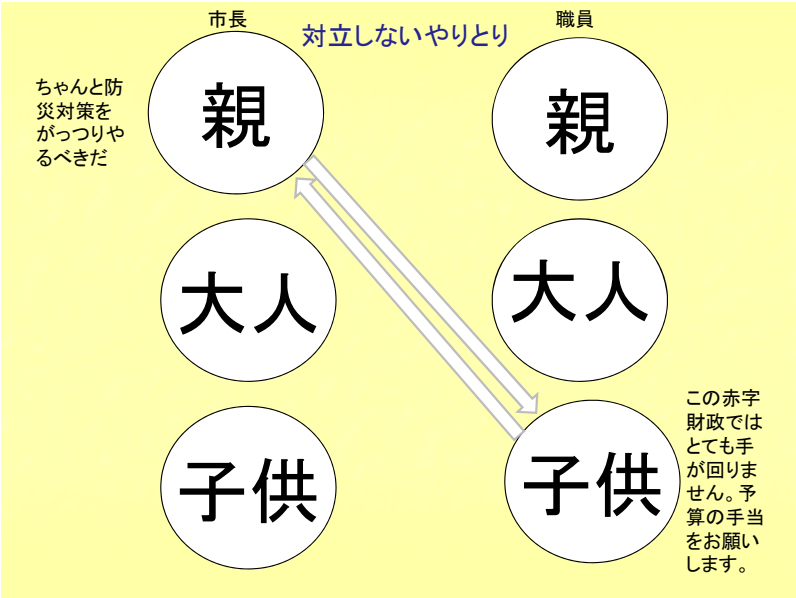
サザエさん一家が心の中にいるみたいな話ですね。波平さんは厳しい父親、フネさんはやさしい母親、婿入りしたマスオさんは理性的な大人、カツオ君やサザエさんは自由な子供、ワカメちゃんは従順な子供、といったところでしょうか?

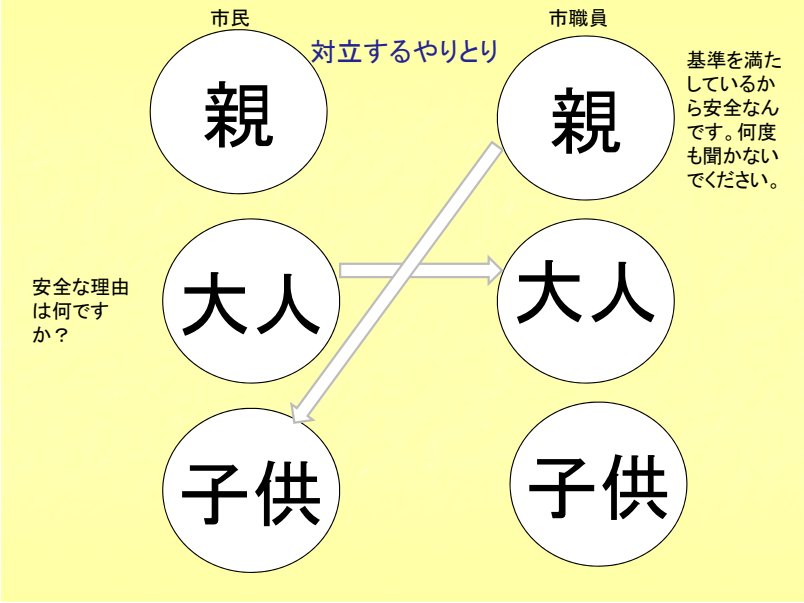
交流分析では、2人の人の対話を、5人ではなく、3人(親と子供は2つを1つにまとめる)で表現します。つまり、心の中には3つの自分がいて、そのどれかで相手と対話しているという考え方です。

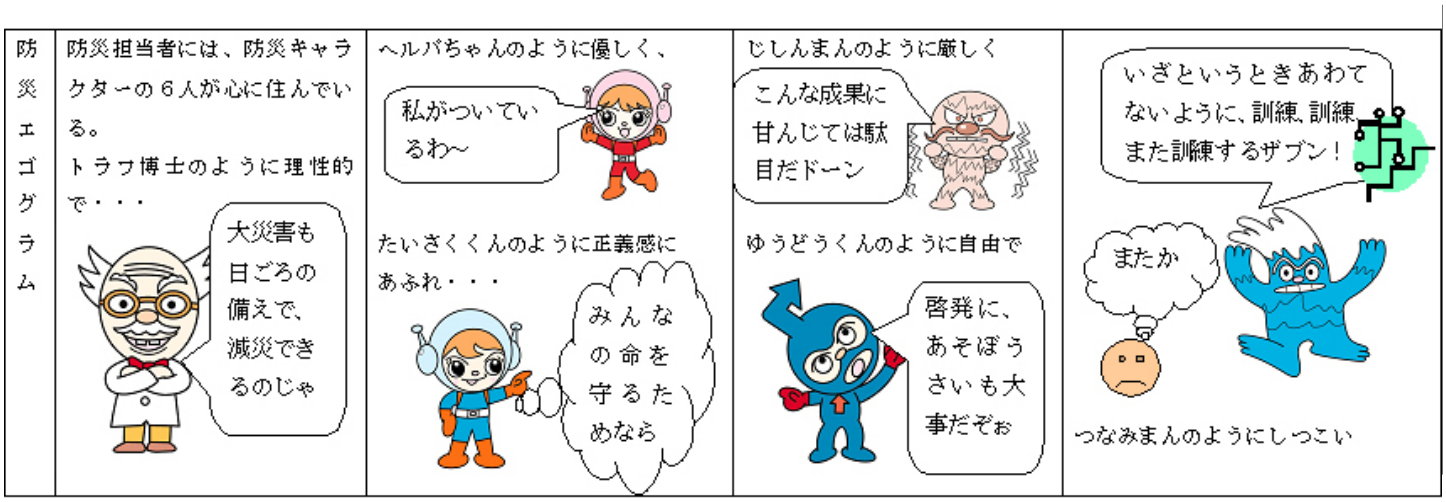
図の左の人が右の人に答えていると考えてください。上の図では、親から子供にいうように市長が指示を出しているのに対し、市職員はあたかも子供が親にいうように予算の手当を願い出ています。この時、やりとりの矢印は交差しないので、対立したやりとりにはなりません。

これに対して、下の図では、安全な理由を理性的に聞いている市民に対して、市職員が親から子供に言うように対応していますので、やりとりとしては対立します。これは，矢印が交差していることからわかります。

対立を引き起こさないためには、相手が親の心で話しているのか、子供の心で話しているのか、大人の心(理性的に)で話しているのかを考えて、交差しないやりとりを考えることが大事になりますね。みなさんも「どうも相手と話がかみ合わない」と思われるときには、こういう視点からも、対話を分析してみてください。





ぼうさいエゴグラム

高知県防災キャラクター©やなせたかし